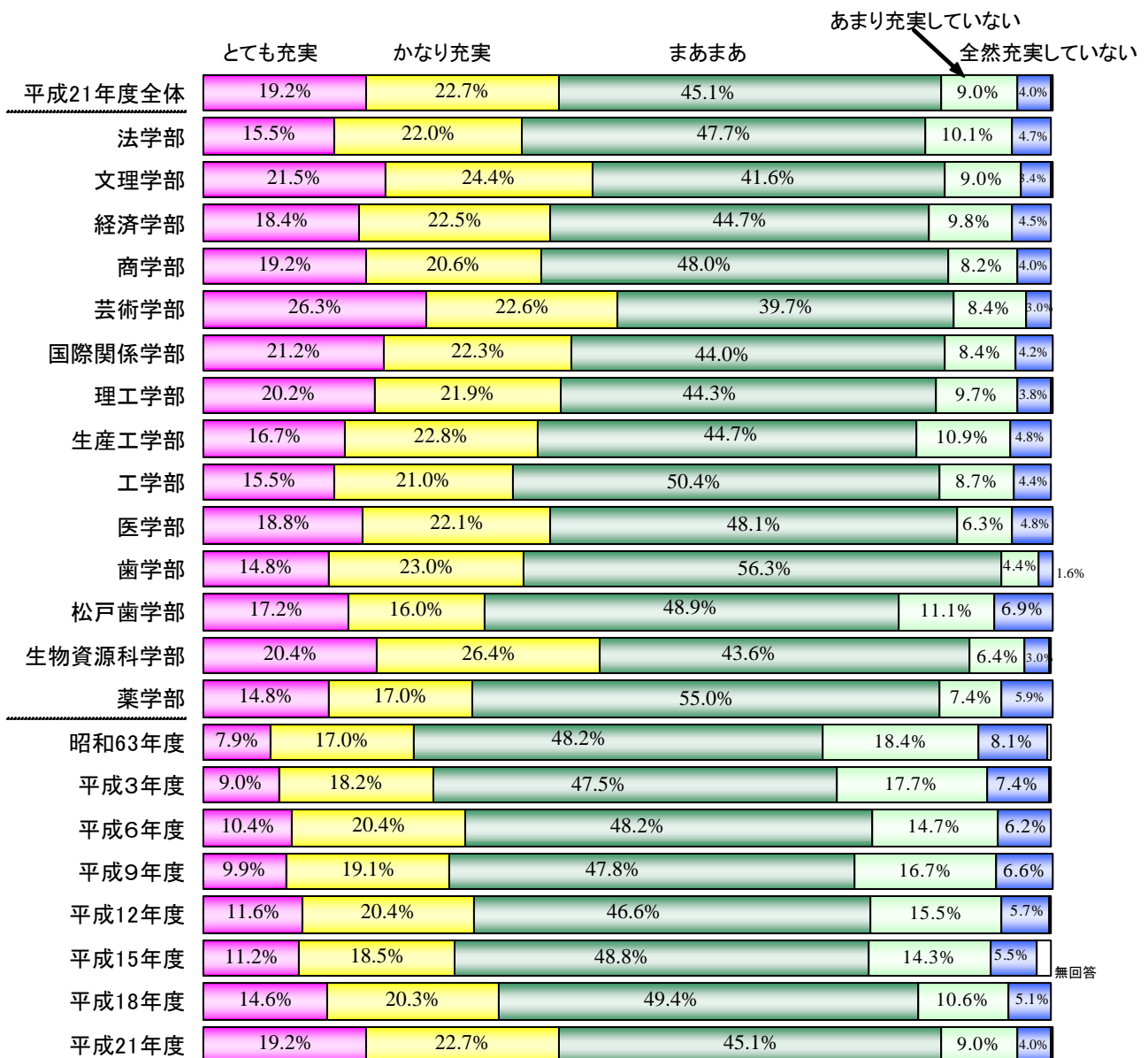


第3章 学生生活の満足度

1. 学生生活充実感

日大生の4割が学生生活に充実感を感じている。学部間で若干の差。
学生生活の充実感は毎年高まっていく傾向。

学生生活の充実感について本学学生全体の回答を見ると、「とても充実している」が19.2%、「かなり充実」が22.7%となっており、41.9%の学生が充実していると回答しています。学部別に「充実」していると答えた学生の比率を見ると、芸術学部が48.9%で最も高く、次いで生物資源科学部（46.8%）、文理学部（45.9%）の順となっています。一方、薬学部では31.8%にとどまっており、14学部の中では最も充実感が低いようです。経年変化を見ると、「充実」の比率は、昭和63年度に比べて17.0ポイント、前回調査時に比べて7.0ポイント増加しており、学生生活の充実感が毎年増大する傾向が見られます。



2. 学生生活充実感の学部別経年変化

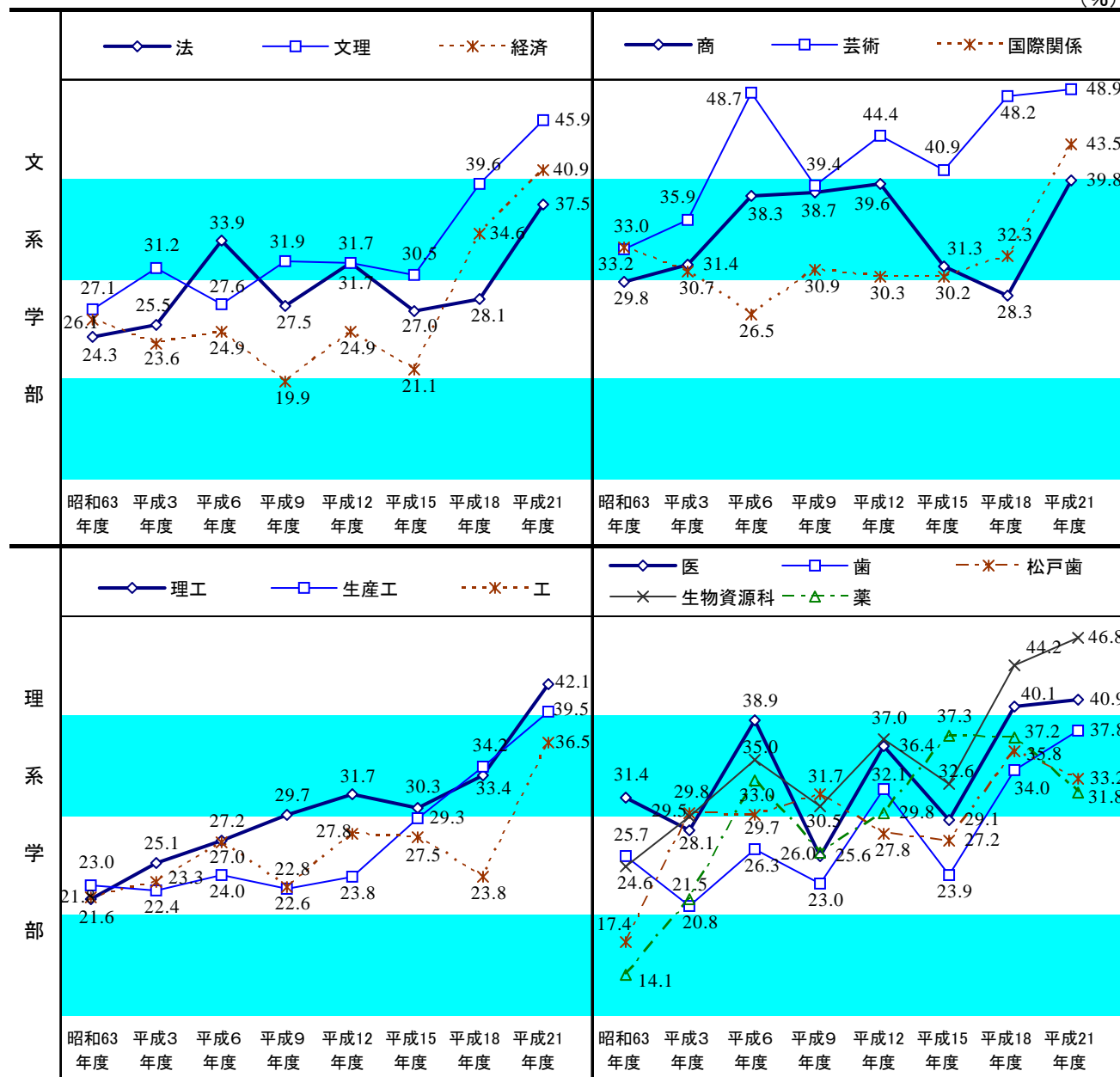
生活が充実している学生の比率は変動が見られるが、長期間では全学部で増加傾向。

経済学部・文理学部・生物資源科学部・歯学部・
工学部・商学部・国際関係学部で近年増加傾向が強い。

学部ごとに学生生活充実者の比率(「とても充実」と「かなり充実」の比率の合計)の経年変化を見ると、調査の年度毎に上下動しながらも、昭和63年度からの21年間に全学部で充実者の比率が高まる傾向が見られます。平成15年度からの上昇率を見ると、経済学部(19.8ポイント増)、文理学部(15.4ポイント増)、生物資源科学部(14.2ポイント増)、歯学部(13.9ポイント増)の順で高くなっています。また、この3年間だけをみると、工学部(12.7ポイント増)、商学部(11.5ポイント増)、国際関係学部(11.2ポイント増)の伸びが目立つ一方で、薬学部(5.4ポイント減)と松戸歯学部(2.6ポイント減)のみ下降しています。大半の学部では新カリキュラムの導入による勉学意識の向上などが影響しているものと思われます。

学部別、「学生生活が充実している」経年変化

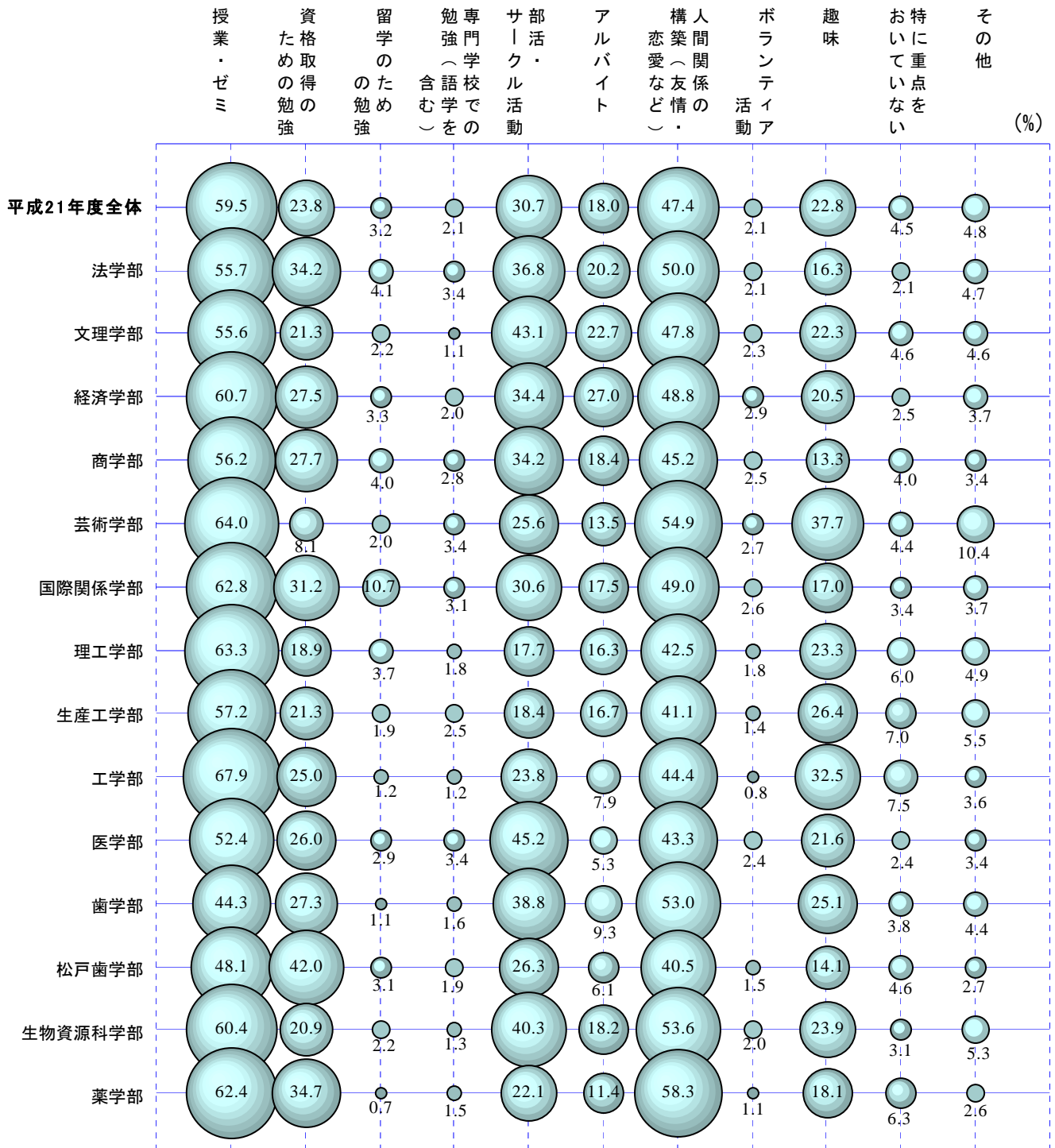
(%)



3. 学生生活で重要視すること

学生生活で重視することは、「授業・ゼミ」と「人間関係」が2トップ。
3年前より「授業・ゼミ」重視の傾向が強まる。

学生生活で重要視することを全体で見ると、「授業・ゼミ」が59.5%で最も高く、「人間関係の構築」が47.4%で2番目となっており、「部活・サークル活動」「資格取得のための勉強」「趣味」が続いています。学部別に見ると、3年前は「人間関係の構築」がトップの学部が7学部ありましたが、今回調査では歯学部のみとなっています。人間関係構築より授業・ゼミ重視の傾向が全体的に強まっているようです。

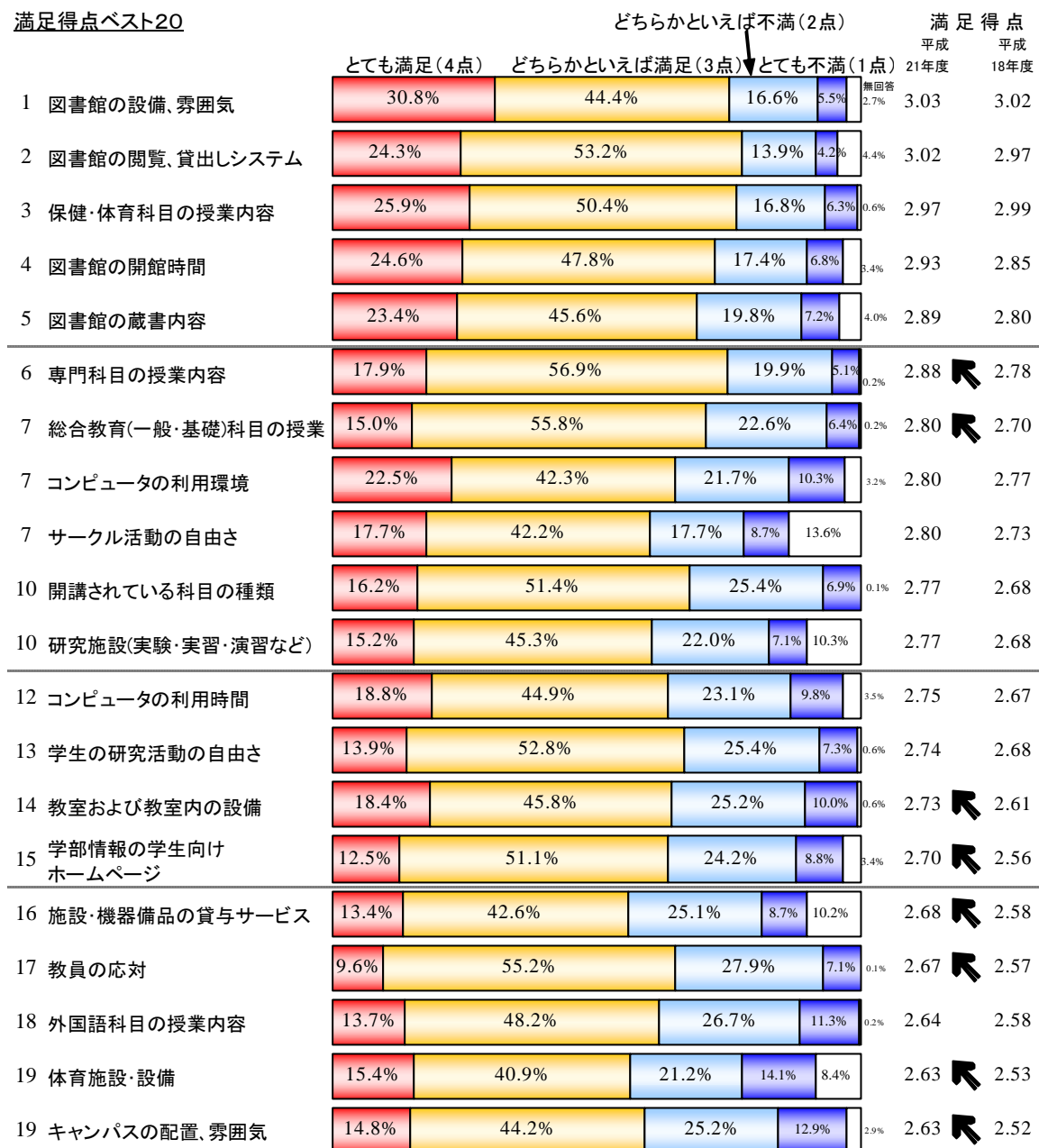


4. 日本大学全体でみた満足得点の高い項目

図書館に対する満足度が非常に高く、コンピュータや授業の満足度も良好。前回に比べ専門教育および総合教育の授業内容、教室の設備などの満足度が向上。

授業、施設、サービスなどについての学生全体の満足得点の高い順を見ると、「図書館の設備、雰囲気」が3.03で最も高く、「図書館の閲覧、貸出しシステム」「図書館の開館時間」「図書館の蔵書内容」が2～5位にランクされており、学部ごとに設置されている図書館に対する満足度が非常に高いことがわかります。コンピュータについては満足得点の8位に「利用環境」、12位に「利用時間」があがっており、満足度は高めとなっています。授業については、「保健・体育科目」が3位、「専門科目」が6位、「総合教育科目」が7位、「開講科目の種類」が10位にランクされており、図書館やコンピュータといったハード面だけでなく、授業に対する満足度も高いと言えます。前回調査時に比べ、「専門科目の授業内容」「総合教育科目」「教室および教室の設備」などに対する満足度が向上しています。

満足得点ベスト20



注) 満足得点は「とても満足(4点)」～「とても不満(1点)」とした加重平均値。無回答は母数から除いている。

0.10点以上上昇……

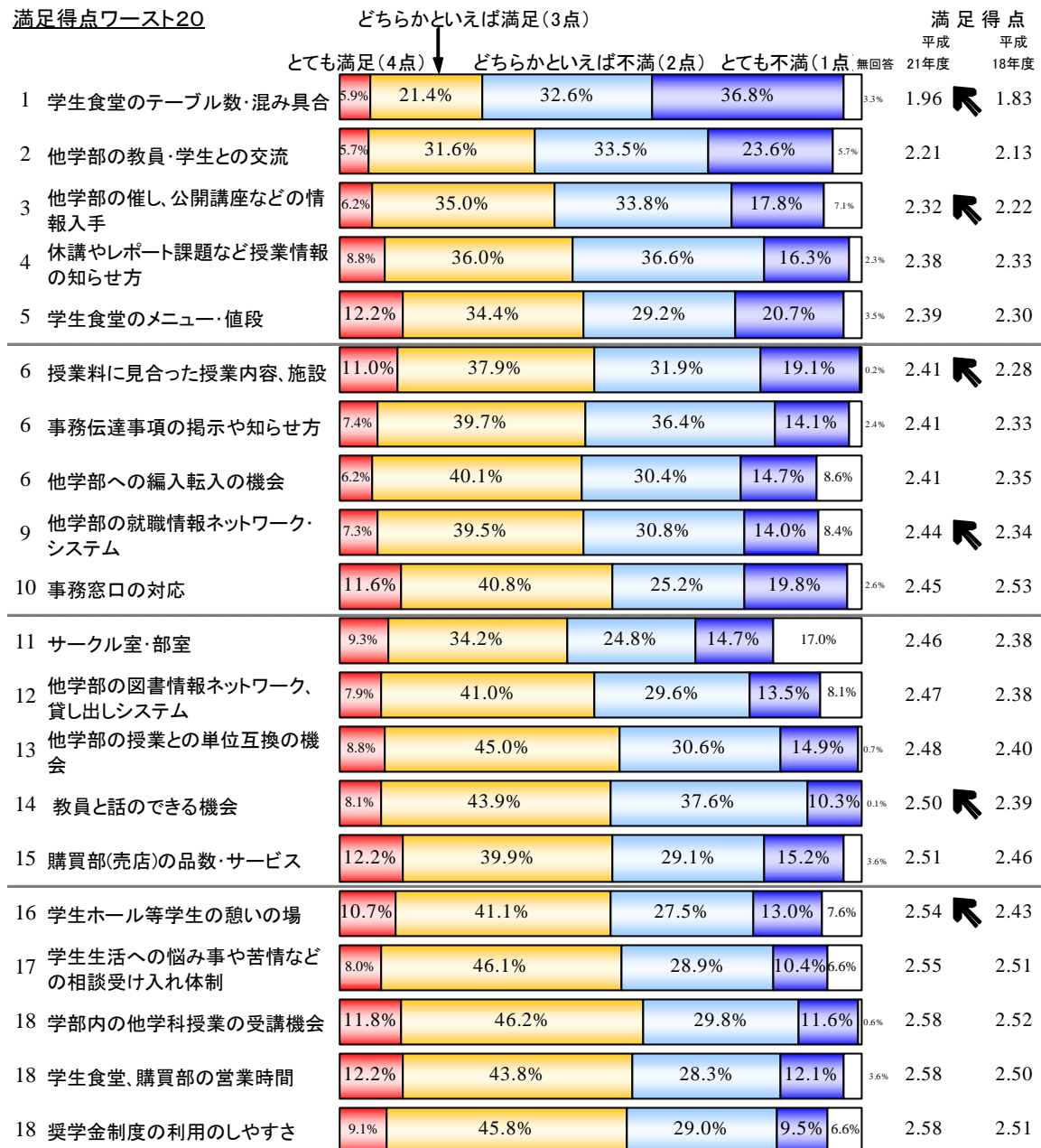
5. 日本大学全体でみた満足得点の低い項目

学生食堂に対する不満がトップ。

「他学部の情報入手」「授業情報の知らせ方」など、情報伝達方法にも不満が強い。
食堂の混み具合、授業料に見合った授業内容・施設などは不満度が改善する傾向。

授業、施設、サービスなどについて、学生全体の満足得点の低い順を見ると、「学生食堂のテーブル数・混み具合」が1.96（不満が69.4%）でワースト1となっています。2～3位には「他学部の教員・学生との交流」「他学部の催し等の情報入手」が続いており、14学部ごとに広範囲に分かれているキャンパス間の交流を望む学生の声を強く反映しているものと思われます。「授業情報の知らせ方」が4位（同52.9%）、「事務伝達事項の掲示や知らせ方」が6位（同50.5%）と、学生にとって不可欠な情報の伝達方法についても不満度は高いと言えます。前回調査と比べると、「学生食堂のテーブル数・混み具合」「授業料に見合った授業内容、施設」などで満足度のアップが見られます。

満足得点ワースト20



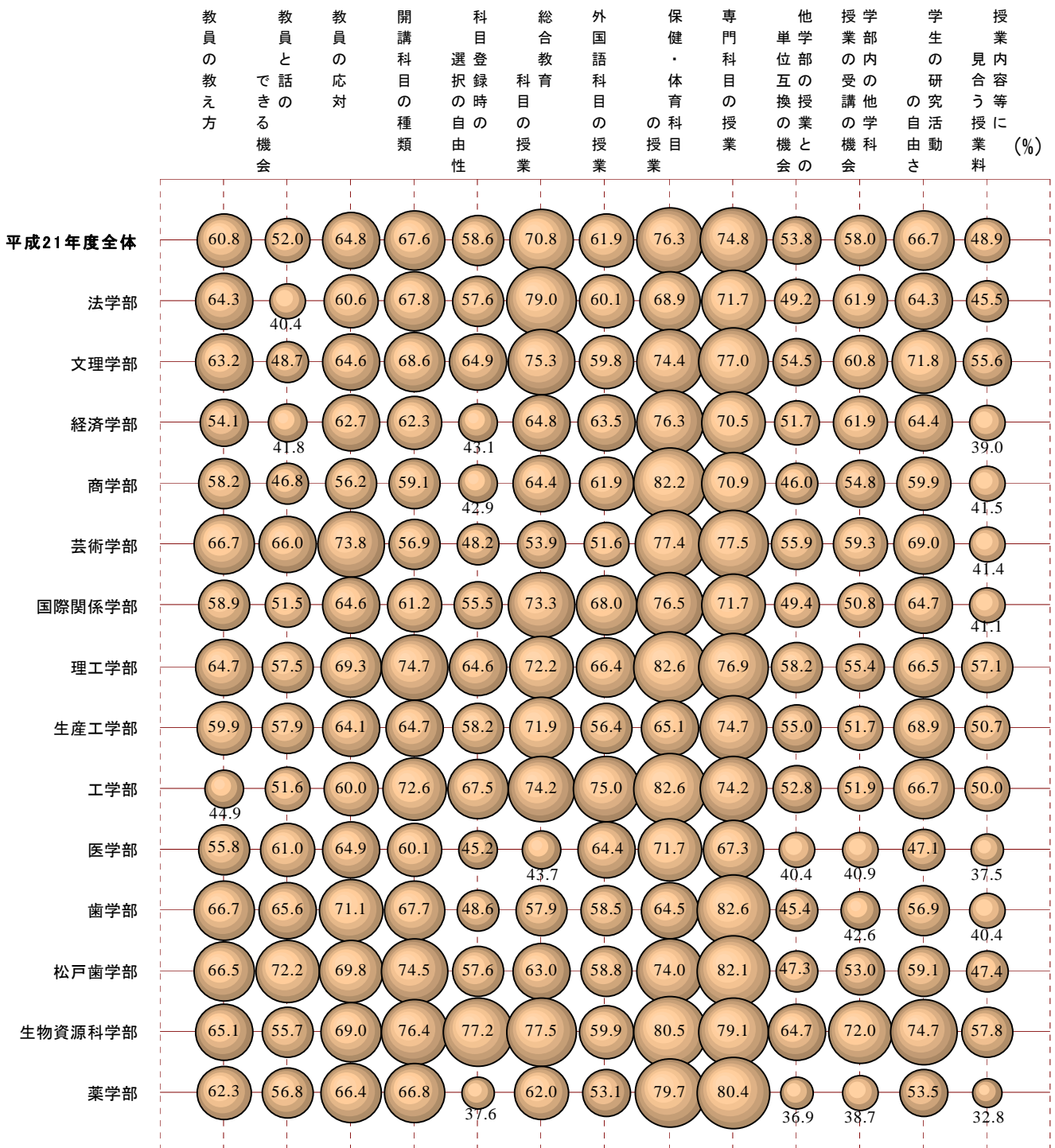
注) 満足得点は「とても満足(4点)」～「とても不満(1点)」とした加重平均値。無回答は母数から除いている。

0.1点以上上昇……

6.授業についての満足層の比率

「教員の対応」は芸術学部・歯学部、「専門科目の授業」は歯学部系と薬学部で満足度が高い。
授業に関する柔軟性の満足度は生物資源科学部で高く、薬学部・医学部で低い傾向。

学部別に「教員の教え方」に対する満足層（とても満足＋どちらかといえば満足）の比率を見ると、ほとんどの学部が60%前後となっていますが、工学部で44.9%と低い点が目立っています。「教員の対応」は芸術学部と歯学部で70%台と高く、「専門科目の授業」は歯学部・松戸歯学部・薬学部で80%台と満足度の高さが目立っています。生物資源科学部は、「科目登録時の選択の自由性」「学部内の他学科授業の受講の機会」「他学部の授業との単位互換の機会」で14学部中トップとなっており、授業に関する柔軟性が学生に評価されています。対照的に、薬学部と医学部ではこれら3項目の満足度が低くなっています。

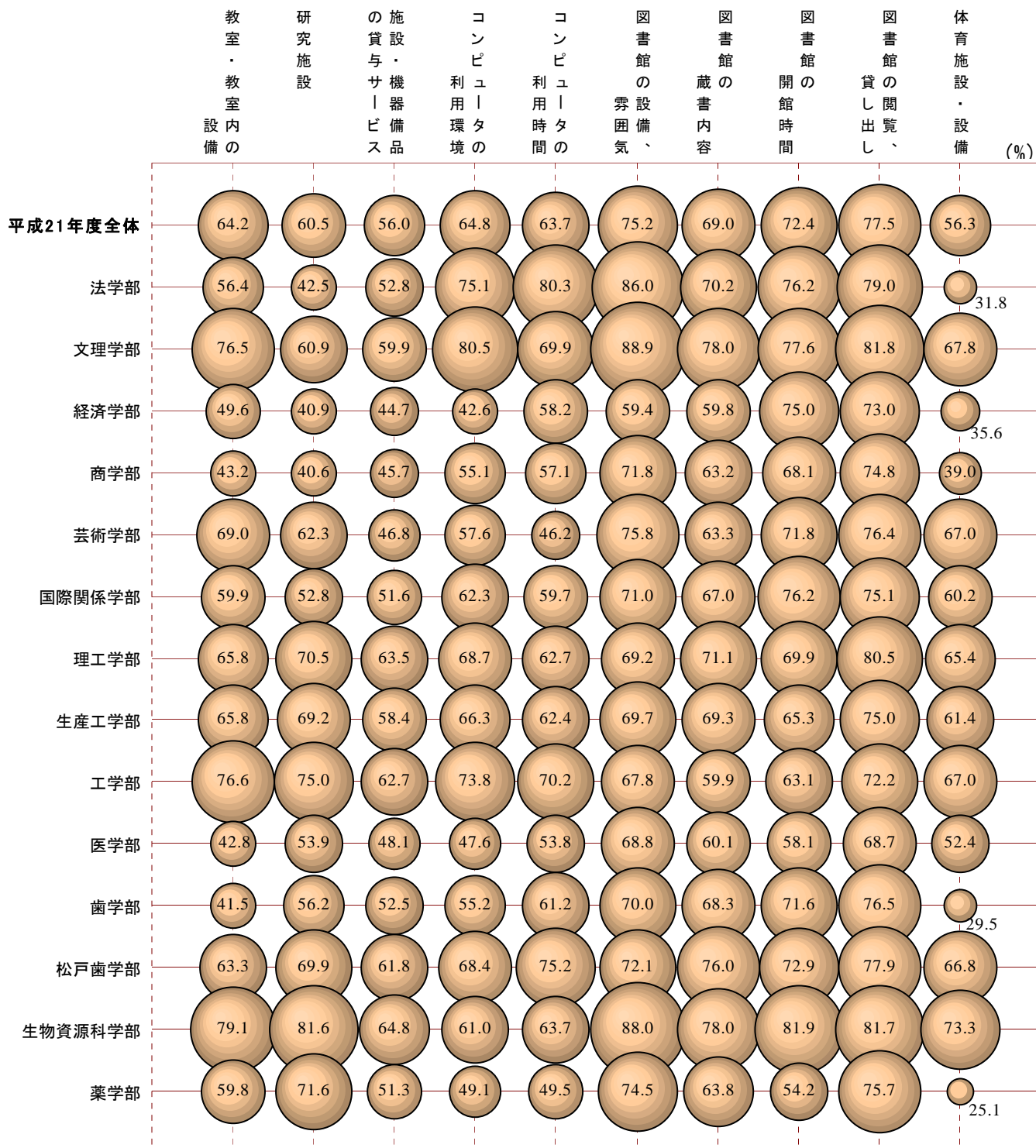


7. 施設についての満足層の比率—その1

教室・教室内の設備に対する満足度の高い学部は生物資源科学部・工学部・文理学部。
 コンピュータに関して、利用環境は文理学部、利用時間は法学部がトップ。
 図書館の設備は文理学部・生物資源科学部・法学部で高い評価。

勉学に関する施設について、満足層の比率を見たものが下図です。「教室・教室内の設備」に対する評価が高い学部は生物資源科学部・工学部・文理学部で80%弱となっています。本調査後の2009年8月に講義棟などが完成した商学部は、40%台と低い評価でした。

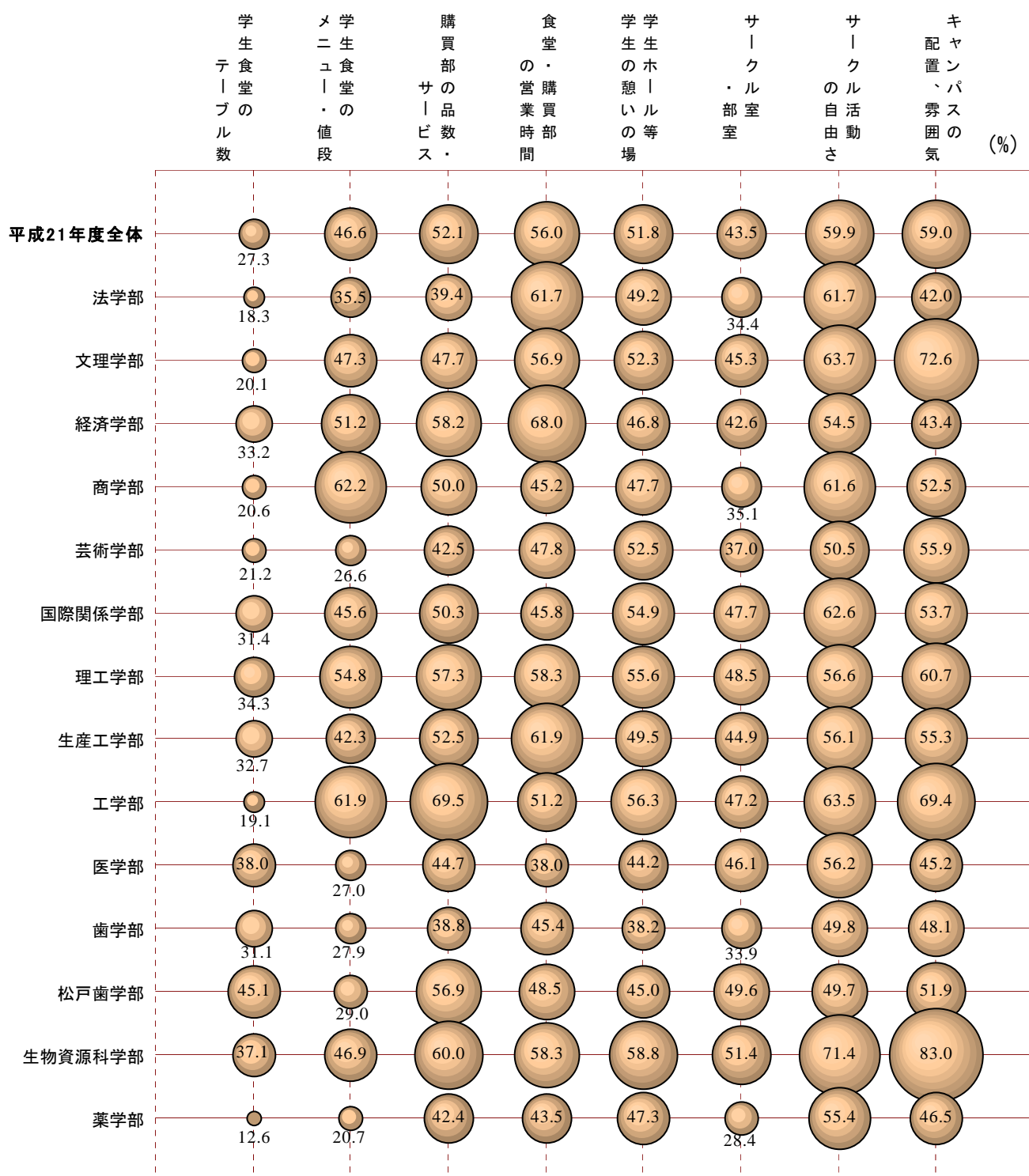
コンピュータの「利用環境」は文理学部、「利用時間」は法学部で最も満足度が高くなっています。図書館の設備・雰囲気については文理学部・生物資源科学部・法学部で90%弱と高い評価を得ています。体育施設・設備の評価は学部ごとにバラつきが目立ちます(25.1~73.3%)。



7. 施設についての満足層の比率—その2

学生食堂のメニュー・値段の満足度は学部によって差。芸術学部と医・歯・薬学部では学生食堂に対する不満が強い。生物資源科学部と文理学部はキャンパスの満足度が高い。

付帯施設について、満足層の比率を見たものが下図です。「学生食堂のメニュー・値段」は、学部によってバラつきが大きく、商学部と工学部では60%台と高いのに対し、芸術学部・医学部・歯学部系・薬学部では20%台と低くなっています。キャンパスの配置・雰囲気については、2002年4月に湘南キャンパスに統合移転した生物資源科学部で83.0%と最も高く、次いで文理学部が72.6%と高い点が目立ちます。

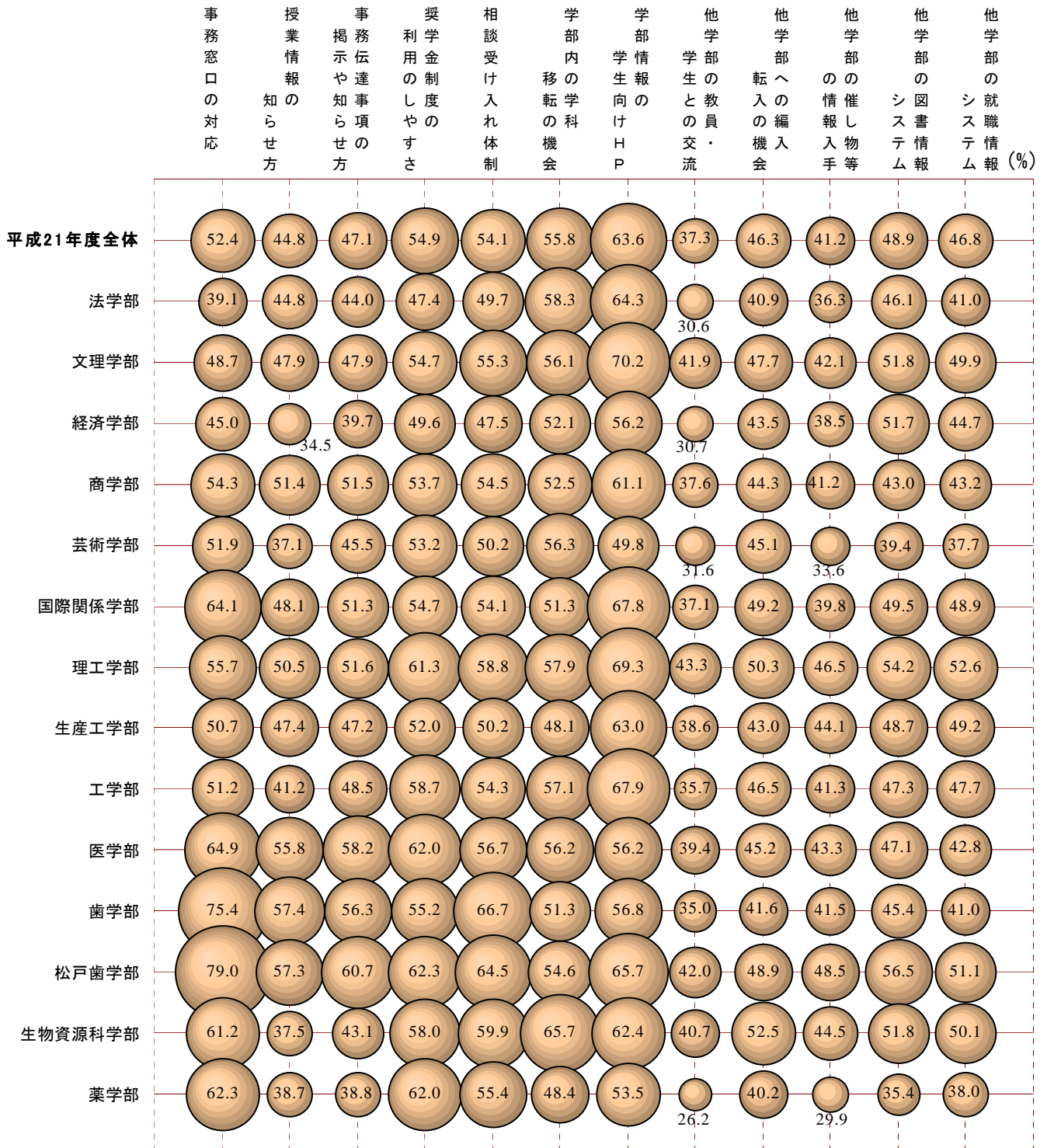


8. 対応・サービスについての満足層の比率

事務窓口の対応や伝達方法に対して満足度の高い学部は、歯学部系。
「他学部の教員・学生との交流」は全学部で最低。交流を望む学生の多さを反映？

学部と大学全体の対応・サービスについての満足層の比率を見たものが下図です。「事務窓口の対応評価が高い学部は松戸歯学部と歯学部で8割弱の学生が満足としています。これらの学部では「事務伝達事項の掲示や知らせ方」に対する満足度も高めとなっています。

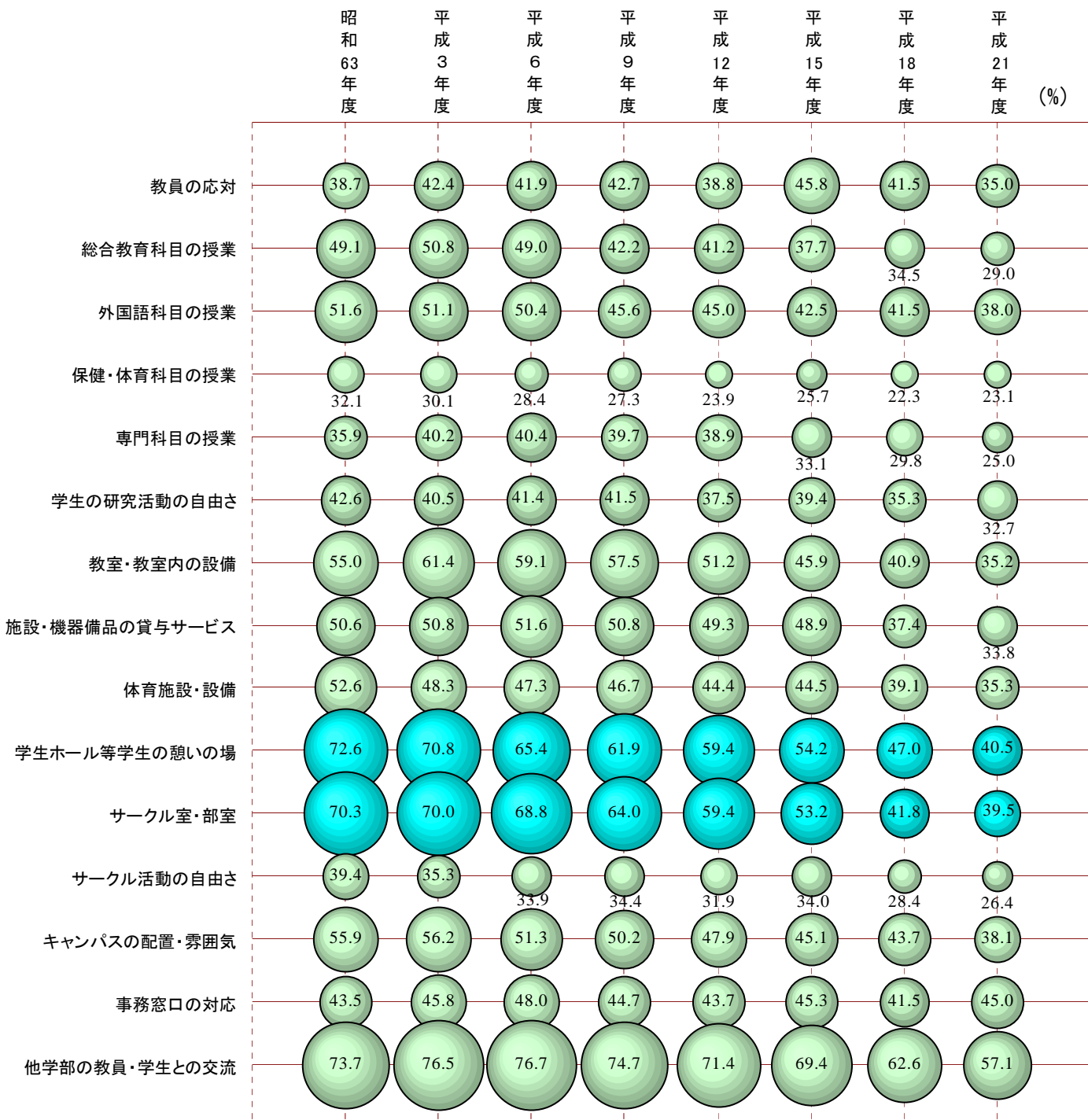
「学部情報の学生向けHP」は文理学部・理工学部・工学部・国際関係学部などで70%前後と、一般的に満足度が高くなっています。「他学部の教員・学生との交流」は全体で37.3%と低く、全学部で最低となっています。学部を越えた「交流」を望む学生の多さの裏返しと考えられます。



9.不満足項目の経年変化

21年前と比較して「学生の憩いの場」と「サークル室・部室」は大幅に不満が減少。
「他学部の教員・学生との交流」, 「教員の応対」も近年不満が減少傾向。

第1回調査（昭和63年）から連続している調査項目について、不満足比率を経年変化で見たものが下図です。不満層の漸減傾向が顕著なのは「学生ホール等学生の憩いの場」（21年前から32.1ポイント減）と「サークル室・部室」（同30.8ポイント減）です。また、「他学部の教員・学生との交流」も平成6年の76.7%をピークに毎年漸減し、今回調査では57.1%まで減少しています。さらに、「教員の応対」は平成15年の45.8%から10.8ポイント減少しています。一方、「事務窓口の対応」は40%台で推移し、3年前より3.5ポイント上昇しています。改善が必要な分野だと言えます。



9.不満足項目の経年変化(3年前との比較)

3年前と比較して、「教員の教え方」に対する不満減少が顕著。医学部で多方面に渡って不満層の減少した項目が多い。学部によっては学内のアメニティー改善により不満減が鮮明。

不満足と回答した学生の比率を前回(3年前)と比較したものが下表です。「教員の教え方」は6学部で10ポイント以上減少(5ポイント以上は12学部)し、全体で9.9ポイント減と改善がみられます。医学部で、10ポイント以上不満層が減少した項目が22項目と多い点が目立ちます。「教員の教え方・教員と話のできる機会・外国語科目の授業」など授業について、「図書館の設備・開館時間・学生の憩いの場」などの施設面、「他学部の教員・学生との交流・他学部の図書館情報システム・事務伝達事項の掲示や知らせ方」などサービス面と多方面に渡って不満の減少率が高くなっています。施設について10ポイント以上減少した項目に着目すると、「学生食堂のテーブル数」は経済学部など5学部、「学生ホールなど憩いの場」が芸術学部など4学部あり、学内のアメニティーについても改善が進んでいることがうかがえます。

不満足層の前回(3年前)との比較		白字	…10ポイント以上不満層減少					…10ポイント以上不満層増加					<増減ポイント>			
		全体	法	文	経	商	芸	国	理	生	工	医	歯	松	生	薬
									工	産	歯	歯	戸	物	源	
授業について	教員の教え方	-9.9	-6.1	-8.7	-8.9	-16.0		-11.1	-14.2	-14.3	-5.5	-18.1		-8.2	-7.7	-16.5
	教員と話のできる機会	-7.1			-5.5	-14.0			-8.9	-5.8	-8.6	-15.2		-9.4	-6.1	-17.6
	教員の応対	-6.5			-11.0	-10.0		-8.0	-9.8	-10.1	-12.1	-11.7				-9.1
	開講科目の種類	-4.1			-13.0			-11.8			-6.8			-7.8		
	科目登録時の選択の自由性	-2.9				7.2	-6.6	-10.9	-7.6		-10.2	-6.1	-6.5	-7.7		
	総合教育科目の授業	-5.5	-6.7				-10.2	-8.5	-5.2	-6.1		-15.2		-9.1	-5.0	-10.0
	外国語科目の授業	-3.5	8.8		-7.0		-5.2	-5.4				-8.9	-33.0	-8.9		
	保健・体育科目の授業	0.8	6.2							5.2		5.2				-6.3
	専門科目の授業	-4.8		-6.0	-7.2	-7.2		-9.0			-10.1		-7.7		-5.2	-5.7
	他学部の授業との単位互換の機会	-4.5					-6.5		-12.9		-7.5	-14.3	-5.2	-13.1		-6.0
	学部内の他学科授業の受講の機会	-3.5			-6.1	-5.2			-11.5			-13.3		-11.2		-8.0
	学生の研究活動の自由さ	-2.6					-6.4						-11.2	-8.9		
授業内容等に見合う授業料	-6.9		-7.7		-10.0	-12.3	-7.2	-9.4	-8.4		-10.0	-10.9	-13.5	-7.2	-17.2	
施設について	教室・教室内の設備	-5.7		-20.6			-12.3				-5.8	-11.9		-14.0		-33.5
	研究施設	-3.2					-10.9				-7.9	-6.9	-6.0	-7.1	-5.7	-12.0
	施設・機器備品の貸与サービス	-3.6		-5.2			-8.0		-5.7				-7.0		-7.5	-8.8
	コンピュータの利用環境	-0.8	6.2		-7.0	13.4								-8.3	-5.2	
	コンピュータの利用時間	-4.1			-8.7						-12.7				-12.8	-12.3
	図書館の設備、雰囲気	-0.8				6.0						-5.0	-15.6	-10.4	-9.7	
	図書館の蔵書内容	-3.9		-7.8		8.4	-9.1		-5.8	-5.0			-7.3	-9.9		
	図書館の開館時間	-3.2					-6.6	-5.1				-5.8	-18.6		-6.4	-7.3
	図書館の閲覧、貸し出し	-1.8			-7.4	5.7						-7.9			-6.9	
	体育施設・設備	-3.8			-10.4			-7.8			-5.0	-9.9			-8.7	-6.9
	学生食堂のテーブル数	-6.9			-17.0			-10.9	-12.7	-12.6		-13.8		-7.9	-5.8	8.0
	学生食堂のメニュー・値段	-4.1			-16.8	-10.1	10.5		-7.6		6.3		7.7	-16.1	-6.1	
	購買部の品数・サービス	-1.9	7.8	9.7	-12.6		-7.2	-11.5			-7.8			-11.4		-9.6
	食堂・購買部の営業時間	-3.7	6.8		-8.7	10.1		-8.4	-9.9	-7.7		-13.4	-5.1	-18.5		-10.7
	学生ホール等学生の憩いの場	-6.5	8.4	-9.5	-17.3	-5.6	-18.2			-5.7		-14.2	-11.3	-8.1	-5.5	
サークル室・部室	-2.3			-6.2				-6.0			-9.4	-10.2	-9.6	-7.2		
サークル活動の自由さ	-2.0										-6.4	-8.9	-18.7	-5.2		
キャンパスの配置、雰囲気	-5.6			-8.8		-13.6	-6.5		-5.3	-12.2	-7.5	-10.5	-8.4			
対応・サービスについて	事務窓口の対応	3.5	11.3	11.5	16.4					5.0	7.1	-5.5	-5.2		-6.2	6.7
	授業情報の知らせ方	-2.3	11.7		7.5	-9.1			-12.4	-9.0		-13.6	-6.6			8.1
	事務伝達事項の掲示や知らせ方	-3.0	8.2	-5.4		-5.5		-10.4	-9.1		-6.9	-14.6		-5.0		15.9
	奨学金制度の利用のしやすさ	-3.6					-6.5	-7.8	-13.8			-12.8		-11.3		-5.7
	相談受け入れ体制	-1.3	8.7		5.5				-5.5	-6.1		-8.4	-16.6	-7.6	-5.6	
	学部内の学科移転の機会	-3.6							-6.1	-8.9		-8.9	-7.5	-8.0	-8.3	
	学部情報の学生向けHP	-6.5			-5.9	-6.6	-9.0		-11.3	-7.4	-7.8	-8.4	-10.2	-10.1		-7.4
	他学部の教員・学生との交流	-5.5		-5.0		-5.9		-6.2	-12.7			-16.2		-10.3		-7.4
	他学部への編入転入の機会	-3.8						-8.4	-6.9	-8.3		-10.9	-9.3	-6.8		
	他学部の催し物等の情報入手	-6.2			-6.3	-5.7	-9.9	-5.3	-10.4	-7.2		-17.1	-7.2	-10.7		-5.8
	他学部の図書情報システム	-4.7			-8.0			-7.5	-11.3			-15.8	-6.6	-12.7		
	他学部の就職情報ネットワークシステム	-4.4			-6.5		-5.2	-8.1	-8.1	-5.3		-12.8		-11.0		-7.0

(注)学部別は、増減が5ポイント未満は非表示。

日大生は勉学志向

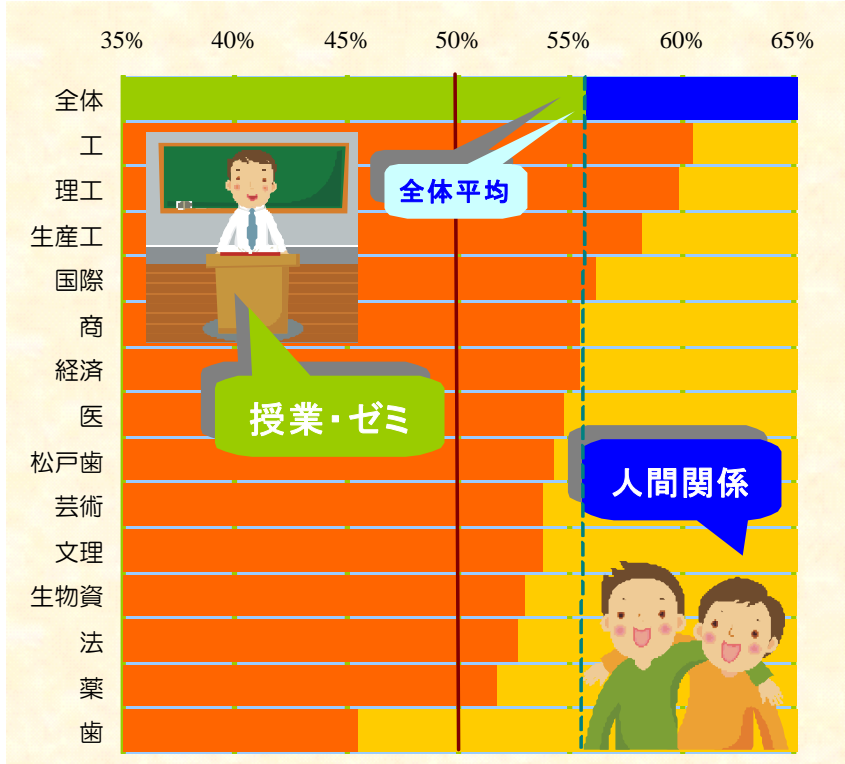
学生たちは授業・ゼミと人間関係のどちらをより重要視しているのでしょうか

授業・ゼミ 対 人間関係

左の図は学部ごとに、「授業・ゼミ」と「人間関係」のどちらを重要視しているかを表しています。

一般的に「授業・ゼミ」を重視する学生が多いことがわかります。「授業・ゼミ」より「人間関係」を重視する学生が多かったのは今回の調査では歯学部のみとなっており、日大生の授業に対する思い入れが強いことがうかがえます。特にその傾向が強いのは理工学系の学部で、上位3位を占めています。この3学部は「授業」と「人間関係」の比率が大まかにいえば6:4の比率になっています。男子学生が多いことも関係しているかもしれませんが、「モノづくり」に向ける情熱が非常に大きいことを物語っていると言えそうです。

一方、理工学系の学部と国際関係学部以外の学部は全体の平均を下回っており、特に歯学部は人間関係を重視する傾向が強く見られています。将来就くことになるであろう職業について考えた際、人とのコミュニケーション能力が必要とされることを潜在的に意識している学生が多いと考えることができるでしょう。



上記グラフ詳細:「学生生活で重要視するもの」の項目のうち、「授業・ゼミ」と「人間関係」の合計値を100とした場合の比率を%で表したもの。

平成18年度 ~ 平成21年度

右のグラフは「授業・ゼミ」と「人間関係」のどちらを重要視しているかについて、前回調査時(平成18年度)と比較したものです。

目立っているものとして、「授業・ゼミ」を重要だとする学生の比率が大幅に増加したという点です。39.2%だった3年前と比較すると17ポイントも増加し、56.2%となっています。

一方、その他の主な項目(10%以上の項目)はすべて減少し、「人間関係」は56.3%から45.2%へ11.1ポイントも減少し、「授業・ゼミ」に1位を譲りました。「資格の勉強」も40.4%から27.7%へ12.7ポイントも減少しました。

大学側の教育面でのレベルアップの取組みが功を奏していると言えますし、学生も全体的に授業により熱意を示しており、厳しい競争社会を生き抜くため、できるだけ努力をしようという学生が増えていると言えそうです。

